

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成30年度実績—

令和元年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	7
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	9
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	14
いじめを許さない学校づくりの推進	15
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	16
健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	17
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	18
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	23
国際理解のための学習や事業の推進	25
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	26
文化財の保存・活用と継承活動の推進	27
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	29
3 学識経験者の意見	32
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	33

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

○ 池田 晃一 氏

【現職】 宮城教育大学教授（保健体育講座）

【専門領域】 スポーツバイオメカニクス サッカー（球技）コーチング論

【研究テーマ】 動作分析 ゲーム分析 指導法 コーチング

○ 本田 伊克 氏

【現職】 宮城教育大学准教授（教職大学院）

【専門領域】 教育課程論 教育社会学（学校知識論）

【研究テーマ】 戦後民間教育研究運動史

(3) 点検及び評価の対象

平成30年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

平成30年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造を目指し、次代を担う子どもたちの創造性、自主性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かした、かおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

目指す『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の振興
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するための35人を標準とする学級編制と少人数指導の実施 ② 個性を伸ばし、児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置 ③ 市立学校再編計画（後期計画）に基づく学校再編の推進と教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の充実と、3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により、就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助と就学機会の確保 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための、特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 通学における利便と安全確保を図るための、遠距離通学の幼児、児童及び生徒への通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施及び結果に基づく協力体制の構築と協働教育の推進 ⑩ 栗駒山麓ジオパークをはじめとする豊かな自然環境を生かしたふろさと教育や農業体験学習の推進
------------------------------	---

【子どもたちの確かな学力の育成】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 市独自の研究指定校などに勤務する教員を先進地（秋田県大仙市）に派遣する研修事業を軸とした、より効果的な学力向上対策の共有と推進 ② 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ③ 幼稚園、小学校及び中学校の教職員並びに保護者を対象とした学力向上に関する講演会の実施 ④ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ⑤ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、県英検 I B A、市独自の標準学力テストの実施と結果分析による課題の把握に基づいた、継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑥ 確かな学力の育成に資する教科指導等における I C T の効果的な活用を図るための研修会の実施 ⑦ 国際理解を深め、英語教育を充実するための A L T の配置と英語に慣れ親しむための事業や教員対象の研修会の実施 ⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上及び自主的学習の習慣化を図るための学習会の実施 ⑨ 家庭における学習習慣の確立のための教員や保護者及び生徒を対象とした講演会の実施 ⑩ 望ましい基本的生活習慣の定着と部活動等の適正化による家庭学習時間の確保 ⑪ 中学校と市内高等学校の連携による学習会の実施 ⑫ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与
---	---

【安全・安心な学校教育の推進】

<p>自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 発達段階に応じて自らの命を守るための危険予知能力の育成 ② 貴重な地域資源である栗駒山麓ジオパークを活用した防災教育等の推進 ③ 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進 ④ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化 ⑤ 通学路の安全の確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進 ⑥ 学校の防犯、防災及び安全管理体制の整備推進 ⑦ 学校遊具の安全点検の実施
-------------------------------------	--

【子どもたちの豊かな心の醸成】

<p>いじめを許さない学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 「栗原市いじめ防止基本方針」や各校園の「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づくいじめ問題についての教職員間の共通理解及び教育相談等の学校全体での組織的な取組の推進 ② いじめや不登校などの問題行動の未然防止や早期発見、早期対応等による迅速な問題解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめの未然防止及び早期発見のためのQ-U調査等の結果の活用を図る研修会の実施と、人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進 ④ いじめ問題の重大事態の調査の実施やいじめ・不登校対策担当者等を中心としたいじめ防止対策体制の強化 ⑤ 学校・保護者等での「重大事態発生時における緊急対応の手引き」についての共通理解の深化、平成31年度から実施の「命を大切にするプログラムによる学習」の計画・立案の実施 ⑥ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進
<p>一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進を図る支援事業の実施 ② 幼稚園及び保育所から小学校への円滑な接続を図るための教育課程の編成と連携事業の実施 ③ 教育相談事業の実施とその対応策等の指導・助言の支援 ④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指した適応指導教室の運営と登校支援ネットワーク事業の活用 ⑤ 支援を必要とする児童生徒の理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催 ⑥ インクルーシブ教育システムの実現を理念とした、関係機関との連携の推進や特別支援コーディネーターのスキルアップと校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等への丁寧な説明と合意形成による、児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施 ⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」の作成及び活用に向けた支援（特別支援学校との連携）

【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

<p>健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ③ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施 ④ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ⑤ 幼児、児童及び生徒並びに教職員の健康促進のための健診事業
-----------------------------	---

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供	【家庭教育の支援】 ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	【青少年期の活動支援】 ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 青少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成事業の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援
	【成年期の活動支援】 ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備 ③ 指導者の育成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実
国際理解のための学習や事業の推進	① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした文化芸術の振興】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 文化施設の設備充実と環境整備
--------------------------	--

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・活用と継承活動の推進	① 地域の文化財の調査、保存・活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実 ④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援
-------------------	---

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成・指導とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 各種スポーツ大会における関係団体や学校との連携強化 ⑥ 東京オリンピック事前キャンプ誘致に向けた取組
------------------------	--

点検及び評価項目一覧（平成30年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	B
			2 「幼稚園、小・中学校のホームページ開設及び適切な更新」	A
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	3 「教育研究センター事業」	A
			4 「学力向上対策プロジェクト事業」	B
			5 「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
			6 「学校ICT環境推進事業」	B
			7 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	A
	安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	8 「防災教育副読本の活用」「ジオパーク教育の推進」	B
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	9 「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」	B
			10 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」	B
	子どもたちの心身の健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	11 「全国体力・運動能力調査の結果分析」	B
共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	12 「家庭教育学級」	D
			13 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	C
			14 「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」	A
			15 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」	A
			16 「くりはら市民大学」	A
		生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	17 「協働教育推進事業」	A
			18 「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」	A
		国際理解のための学習や事業の推進	19 「青空大使派遣事業」	B
地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	地域に根ざした文化芸術の振興	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	20 「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」	A
			21 「史跡伊治城跡・史跡入の沢遺跡整備事業」	B
	文化財の保存と活用の推進	22 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B	
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	23 「栗原ハーフマラソン大会」	B
			24 「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」	A
			25 「宮城ヘルシー2018ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	B

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 教育総務課
1 目的				
学校教育において、児童生徒一人一人が主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけ、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合い、幅広い資質を培う。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
1「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」				
事業概要及び目標				
栗原市学校再編計画（後期計画H26-H31）において、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけ、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという観点から、小学校では各学年2学級以上、中学校においては学校全体で9学級以上とする学校再編を推進し、適正規模の確保に努める。				
3 平成30年度の取組と自己評価				
取組と成果				
高清水・瀬峰地区中学校の再編については、平成29年10月から継続して、合計16回の再編準備委員会を開催し、校名、校章、校歌、制服など、栗原南中学校開校に向けての調整を行い、3月25日最終答申を提出している。				
【高清水・瀬峰地区中学校再編】				
学校名		再編準備委員会の開催状況		
高清水中学校 瀬峰中学校	5/16	第7回再編準備委員会（委員長の互選、前年度の検討内容及びスケジュール）		
	6/19	第8回再編準備委員会（制服、部活動）		
	7/26	第9回再編準備委員会（校章、部活動）		
	8/27	第10回再編準備委員会（制服、校章、校歌、部活動）		
	9/11	第11回再編準備委員会（部活動、校章、校歌）		
	9/25	第12回再編準備委員会（部活動、校章、校歌）		
	10/16	第13回再編準備委員会（部活動、校章、校歌）		
	11/21	第14回再編準備委員会（部活動）		
	1/30	第15回再編準備部委員会（栗原南中学校に係る諸事項）		
	3/25	第16回再編準備委員会（最終答申）		
閉校式 平成31年2月16日 瀬峰中学校 平成31年2月24日 高清水中学校 開校式 平成31年4月13日 栗原南中学校				
評 価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針				
<p>築館地区小学校の再編については、平成29年12月に宮野小学校父母教師会から学校再編に係る意向調査の結果「学校再編には反対」との報告を受けている。平成30年度においても父母教師会の合意を得ることは出来なかった。</p>			➡	<p>現在の宮野小学校においては、適正規模は確保できない状況にあることから、再編について、今後も、児童数の推移を見ながら、保護者との意見交換を行い、再編を進める必要がある。</p>
5 学識経験者の意見				
高清水・瀬峰地区中学校の再編については、新しく栗原南中学校として開校できるようになったことは多大な努力の成果と考えられる。また、築館地区小学校の再編についても、再編開校する小学校における児童の学校生活の安定と充実のために、保護者等との意見交換を継続していただき、合意を得られるよう努力していただきたい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課
1 目的				
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
2「幼稚園、小・中学校のホームページ開設及び適切な更新」			幼稚園のホームページ開設数と小・中学校の更新回数	
事業概要及び目標			現状値（平成29年度）	
開かれた幼稚園、小・中学校を目指し、旬な情報を定期的に発信するため、栗原市のホームページに幼稚園のホームページを開設する。			幼稚園 0園/9園	
また、小・中学校のホームページ更新等を適切に行う。			小学校 開設	
			中学校 //	
			目標値（平成30年度）	
			幼稚園 9園/ 9園	
			小学校 年6回以上の更新	
			中学校 //	
			実績値（平成30年度）	
			達成率 100%	
3 平成30年度の取組と自己評価				
取組と成果				
小・中学校については、平成30年3月にウェブページを公開。 幼稚園については、平成30年12月にウェブページを公開し、目標を達成した。				
評 価				
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針				
各幼稚園から掲載依頼を受けて掲載を行う。各幼稚園及び各学校における活用の促進と定期的な更新が必要である。			➡	更新内容を統一し、保護者等にホームページの公開を周知し、閲覧の回数を増やす。
5 学識経験者の意見				
昨年度、小・中学校のホームページの開設そして今年度は幼稚園のホームページの開設と短期での目標達成は非常に評価できるところである。 今後も各校でのホームページの活用や更新、並びに保護者等に周知することで、よりよい運営を期待したい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																		
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																																		
1 目的																																						
幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。																																						
2 具体的事業																																						
施策を構成する事業			目標指標																																			
3 「教育研究センター事業」			研修受講者の満足度（大変参考になった）の向上																																			
事業概要及び目標			現状値（平成29年度） 59.3%																																			
市立幼稚園、小・中学校の教職員の交流、研修、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、次代を担う人づくり＝「学府くりはら」の着実な実現を図る。加えて、ICTを活用した授業を進めるため、担当特任教授を配置する。			目標値（平成30年度） 70.0%																																			
			実績値（平成30年度） 67.3%																																			
			達成率 96.1%																																			
			※センター研修に限ると 実績値（平成30年度） 71.1%																																			
		達成率 101.6%																																				
3 平成30年度の取組と自己評価																																						
取組と成果																																						
開所から5年目を迎え、「交流」「支援」「発信」の運営方針の下、事業の充実に努めた。																																						
<p>○学力向上研究指定校への特任教授等派遣と支援の充実 校長の経営方針を確認し、各校の児童生徒の学習に関する実態と教員の指導力の実態を把握しながら、学習指導に関する支援を円滑かつ強力に進めた。</p> <p>○小学校「外国語活動・英語研修会」と小中別の「道徳教育研修会」の開催 令和2年度に完全実施となる新学習指導要領を見据えた研修会であり、受講者から好評を得た。</p> <p>○「校長研修会」の開催 著名な教育研究者を講師として招き、「学校における働き方改革」についての研修会を実施した。次年度の研修内容にも期待する旨の感想が多く寄せられた。</p> <p>○「ICT活用研修会」におけるプログラミング教育研修実施</p>																																						
出前研修も含めた全研修会の受講者数は延べ809名である。研修に対する満足度は、「大変参考になった」のみだと96.1%であるが、それに「参考になった」を合わせると99.7%という結果であった。			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>講師</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">特に充実を図った研修会</td> <td>外国語活動・英語研修会</td> <td>古川第五小教諭</td> <td>小・中</td> <td>18</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>道徳教育研修会</td> <td>大河原南小教諭・前八木山中校長</td> <td>小・中</td> <td>35</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>校長研修会</td> <td>教育家・妹尾昌俊氏</td> <td>幼・小・中</td> <td>50</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">その他の研修会（41回）</td> <td>706</td> <td>99.68%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">全ての研修会</td> <td>809</td> <td>99.73%</td> </tr> </tbody> </table>				講師	対象	参加人数	満足度	特に充実を図った研修会	外国語活動・英語研修会	古川第五小教諭	小・中	18	100%	道徳教育研修会	大河原南小教諭・前八木山中校長	小・中	35	100%	校長研修会	教育家・妹尾昌俊氏	幼・小・中	50	100%	その他の研修会（41回）				706	99.68%	全ての研修会				809	99.73%
		講師	対象	参加人数	満足度																																	
特に充実を図った研修会	外国語活動・英語研修会	古川第五小教諭	小・中	18	100%																																	
	道徳教育研修会	大河原南小教諭・前八木山中校長	小・中	35	100%																																	
	校長研修会	教育家・妹尾昌俊氏	幼・小・中	50	100%																																	
その他の研修会（41回）				706	99.68%																																	
全ての研修会				809	99.73%																																	
評 価																																						
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																					
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																																					
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																					
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針																																						
令和元年度が1年目となる「学力向上研究指定校」への実効性のある支援と、特別の教科「道徳」及び小学校「外国語活動」「外国語（英語）」についての充実した研修が必要である。			 指定の有無にかかわらず、指導主事と特任教授の派遣を更に積極的に行い、市内全教員の授業力向上を図る。また、道徳や小学校英語については、実践的かつ具体的な研修を設定する。																																			
5 学識経験者の意見																																						
特任教授等の積極的な活用により多くの研修会が開催され、参加者の満足度もほぼ100%と良い成果が得られたことが見てとれる。今後も他の事業と連携を取りながら充実した研修が開催されることを期待したい。																																						

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標																																																														
4「学力向上対策プロジェクト事業」	「全国学力・学習状況調査」の平均正答率の改善																																																														
事業概要及び目標	※ 全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、その数値を改善する。																																																														
栗原市独自の学力向上研究指定校事業に基づく研究指定により、小・中学校における質の高い学びの実現を目指す実践研究を推進し、その成果・課題を図ることににより児童生徒の学力向上を目指す。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 (平成29年度)</th> <th>→</th> <th>目標値 (平成30年度)</th> <th>→</th> <th>実績値 (平成30年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">小学校</td> <td>国語知識</td> <td>0</td> <td>→</td> <td>+2</td> <td>→</td> <td>-4</td> </tr> <tr> <td>国語活用</td> <td>-3</td> <td>→</td> <td>-1</td> <td>→</td> <td>-5</td> </tr> <tr> <td>算数知識</td> <td>-2</td> <td>→</td> <td>0</td> <td>→</td> <td>-4</td> </tr> <tr> <td>算数活用</td> <td>-4</td> <td>→</td> <td>-2</td> <td>→</td> <td>-7</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">中学校</td> <td>国語知識</td> <td>-4</td> <td>→</td> <td>-2</td> <td>→</td> <td>-2</td> </tr> <tr> <td>国語活用</td> <td>-3</td> <td>→</td> <td>-1</td> <td>→</td> <td>-3</td> </tr> <tr> <td>数学知識</td> <td>-10</td> <td>→</td> <td>-8</td> <td>→</td> <td>-8</td> </tr> <tr> <td>数学活用</td> <td>-8</td> <td>→</td> <td>-6</td> <td>→</td> <td>-8</td> </tr> <tr> <td colspan="6">実績値 (平成30年度) 達成率 91.7% (=栗原市正答率÷目標正答率)</td> </tr> </tbody> </table>		現状値 (平成29年度)	→	目標値 (平成30年度)	→	実績値 (平成30年度)	小学校	国語知識	0	→	+2	→	-4	国語活用	-3	→	-1	→	-5	算数知識	-2	→	0	→	-4	算数活用	-4	→	-2	→	-7	中学校	国語知識	-4	→	-2	→	-2	国語活用	-3	→	-1	→	-3	数学知識	-10	→	-8	→	-8	数学活用	-8	→	-6	→	-8	実績値 (平成30年度) 達成率 91.7% (=栗原市正答率÷目標正答率)					
	現状値 (平成29年度)	→	目標値 (平成30年度)	→	実績値 (平成30年度)																																																										
小学校	国語知識	0	→	+2	→	-4																																																									
	国語活用	-3	→	-1	→	-5																																																									
	算数知識	-2	→	0	→	-4																																																									
	算数活用	-4	→	-2	→	-7																																																									
中学校	国語知識	-4	→	-2	→	-2																																																									
	国語活用	-3	→	-1	→	-3																																																									
	数学知識	-10	→	-8	→	-8																																																									
	数学活用	-8	→	-6	→	-8																																																									
実績値 (平成30年度) 達成率 91.7% (=栗原市正答率÷目標正答率)																																																															

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

教育委員会指定2年目(最終年度)の学力向上研究指定校7校が、授業づくりを中心とした校内研究を推進し、授業公開・公開研究会を実施した。その成果を学力向上研究推進協議会(年4回)において、市内外に広く伝えた。

	若柳小	若柳中	一迫小	花山小	栗原西中	金成小中
第1回	7月2日	7月12日	6月19日	9月28日	7月18日	6月27日
第2回	9月6日	8月31日	9月18日	11月2日	9月21日	9月3日
第3回 (公開研究会)	10月26日 算数3コマ	10月26日 数学、社会 理科	11月27日 算数3コマ	12月4日 算数	11月14日 数学	12月7日 算数・数学 3コマ

秋田県大仙市への「教育先進地派遣研修」に、小学校教諭7名、中学校教諭5名が参加し、1週間の研修を行った。派遣教員は、秋田の探求型授業を中心に学級経営や地域との連携の在り方等を学び、所属校の教員の指導力向上や児童生徒の学力向上に励んだ。

全国学力・学習状況調査においては、中学校数学が依然として低い正答率である。そこで、教育研究センターでは問題ごとに正答率と誤答例及び誤答の要因について分析し、各中学校に個別に情報を提供した。このことは、各校における数学の授業づくり等に生かされた。

	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
栗原市	67	50	60	45	74	58	58	39
全国	71	55	64	52	76	61	66	47
差	-4	-5	-4	-7	-2	-3	-8	-8

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

中学校数学の正答率が低いという傾向が続いている。特に、依然としてA問題(知識に関する問題)の正答率が低いことから、小学校も含め基礎的・基本的な知識・理解の向上が必要となる。

➡

教育研究センターから出された「算数・数学の学力向上に向けて」の取組を、各小中学校が着実に行うような態勢づくりを進める。また、大仙市に派遣された教員が自らの実践授業により探究型授業の良さ(実効性)を広く伝える。

5 学識経験者の意見

秋田県大仙市への小中学校教員の派遣や教育センターでの数学の正答率と誤答例の分析などにより学力向上を図ろうとする意図は随所に見られる。特に中学校の数学の正答率と誤答例の分析を各中学校に個別に情報を提供し、授業づくりに生かすことはPDCAサイクルを考えた良い循環になっていると考えられる。今後も授業改善、学力向上を図るための努力を継続していただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																								
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																																								
1 目的																																												
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																												
2 具体的事業																																												
施策を構成する事業			目標指標																																									
5「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」			NRT（市独自の学力調査）の調査における標準偏差値の向上																																									
事業概要及び目標			現状値（平成29年度） 小学校全体の標準偏差値：50.9 中学校全体の標準偏差値：47.7 目標値（平成30年度） 小学校全体の標準偏差値：54.0 中学校全体の標準偏差値：49.0 実績値（平成30年度） 小学校全体の標準偏差値：50.5 中学校全体の標準偏差値：48.0 達成率 小学校全体の標準偏差値：93.5% 中学校全体の標準偏差値：97.9%																																									
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施し、自主的学習習慣の形成を図り、学力向上を目指す。 ・栗原市単独による標準学力テストの実施 ・保護者、教職員等を対象とした学力向上のための教育講演会などの実施 																																												
3 平成30年度の取組と自己評価																																												
取組と成果																																												
学び支援コーディネーター事業の「放課後学習会」実施校は、昨年度の7校から1校増加し、8校で実施した。																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>放課後学習会</th> <th>週末学習会</th> <th>夏休み学習会</th> <th>冬休み学習会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期間</td> <td>6月～3月</td> <td>6月～2月（計6回）</td> <td>8/8・8/10</td> <td>12/26～12/28</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>市内小学校8校</td> <td>栗原文化会館及び市教育研究センター</td> <td>栗原文化会館及び市教育研究センター</td> <td>栗原文化会館及び市教育研究センター</td> </tr> <tr> <td>対象者</td> <td>小1～6</td> <td>小3～6</td> <td>小3～6</td> <td>小3～6</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>10,039人</td> <td>469人</td> <td>195人</td> <td>323人</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>475人</td> <td>115人</td> <td>21人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>全児童あたりの参加率</td> <td>340%</td> <td>23.6%</td> <td>9.8%</td> <td>16.3%</td> </tr> <tr> <td>前年度の参加率</td> <td>428%</td> <td>13.5%</td> <td>13.5%</td> <td>13.5%</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	放課後学習会	週末学習会	夏休み学習会	冬休み学習会	期間	6月～3月	6月～2月（計6回）	8/8・8/10	12/26～12/28	場所	市内小学校8校	栗原文化会館及び市教育研究センター	栗原文化会館及び市教育研究センター	栗原文化会館及び市教育研究センター	対象者	小1～6	小3～6	小3～6	小3～6	参加者	10,039人	469人	195人	323人	指導者	475人	115人	21人	34人	全児童あたりの参加率	340%	23.6%	9.8%	16.3%	前年度の参加率	428%	13.5%	13.5%	13.5%
事業名	放課後学習会	週末学習会	夏休み学習会	冬休み学習会																																								
期間	6月～3月	6月～2月（計6回）	8/8・8/10	12/26～12/28																																								
場所	市内小学校8校	栗原文化会館及び市教育研究センター	栗原文化会館及び市教育研究センター	栗原文化会館及び市教育研究センター																																								
対象者	小1～6	小3～6	小3～6	小3～6																																								
参加者	10,039人	469人	195人	323人																																								
指導者	475人	115人	21人	34人																																								
全児童あたりの参加率	340%	23.6%	9.8%	16.3%																																								
前年度の参加率	428%	13.5%	13.5%	13.5%																																								
それぞれの学習会に参加した児童は自ら目標を設定し、自主学習に取り組んでいた。参加した児童からは「来年も参加したい。」等、前向きな感想が寄せられた。また、平日1時間以上の家庭学習に取り組んでいる6年児童は78%（全国学力・学習状況調査の結果より）と全国を12%上回った。																																												
評価																																												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																											
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																																											
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																											
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針																																												
事業内容の十分な説明とともに、各小学校に事業を周知し、参加者の増加を図る。			 4月当初に校長会及び教頭会等で早めの周知を行い、事業内容について理解してもらおう。また、学び支援コーディネーターの活用により、学習習慣の形成を目指す。																																									
5 学識経験者の意見																																												
「学び支援コーディネーター等配置事業」では各自が自ら目標を設置し、自主学習に取り組んだ結果『来年も参加したい』という感想があったこと、家庭学習に取り組んでいる6年生児童は78%と全国を12%上回っていることは非常に良い成果と考えられる。反対に放課後学習会の実施校が昨年度より1校増加し8校になったにもかかわらず、参加者が減少してしまったことはその原因を参加者の感想などから詳しく分析する必要があると考える。																																												

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

社会の情報化が進展していく中で、児童生徒が情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な情報活用能力を身に付けさせ、主体的に活用していく力を備えることが必要である。

そのため、基礎的な情報活用能力を身に付けるため、小・中学校にICT環境を整備し児童生徒の情報教育を推進するとともに、学習意欲の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

6「学校ICT環境推進事業」

※「ICT」とは、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術

小・中学校ICT活用の教科数

現状値（平成29年度）
 小学校 7.42教科/校
 中学校 7.63教科/校
 目標値（平成30年度）
 小学校 8.00教科/校
 中学校 8.00教科/校
 実績値（平成30年度）
 小学校 7.42教科/校
 中学校 7.63教科/校
 達成率 94.1%

事業概要及び目標

個人の基礎的な情報活用能力を身に付け、情報化社会に主体的に対応していく力を備えるとともに、児童・生徒の「学習意欲の向上」と「学力の向上」のため、ICT環境を活用する。

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

教育研究センターでは平成29年度と同様に、センター研修（3回）と出前研修（8回）を実施し、教員のICT活用に係る知識と技能の向上を図った。

○平成30年度ICT活用研修会（講師は全て宮城県総合教育センター指導主事）

回	実施日	研修の内容	参加人数	満足度
1	7月5日	ICTを活用した授業づくりについて	19人	100%
2	9月19日	・ICT担当者の役割 ・小学校で令和2年度から全面実施となる新学習指導要領の「プログラミング教育」についての研修	20人	100%
3	11月15日	ICTを活用した授業実践の発表（市内全20校）	20人	100%

※満足度は、「大変参考になった」と「参考になった」の合計

○平成30年度ICT活用出前研修会（講師は全て業者）

教員の活用技能のレベルやニーズに応えるために、基本操作の研修、授業支援の研修動画作成の研修等6種類の研修内容に改編した。この研修会の形態が有効であり、各自の授業実践等に生かされたことは、「大変参考になった・参考になった」が事後アンケートの98.5%を占めていたことから確認できる。

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

ICT活用に苦手意識をもっている教員を少しでも減らすよう出前研修の内容を検討する。加えて、小学校における「プログラミング教育」の推進を図る。



各学校のニーズ（プログラミング教育も含む）に応えた出前研修を実施する。また、活用すること自体が目的とならないよう、児童の学習の質との関係について検証を行いながら活用の支援を進めていく。

5 学識経験者の意見

センター研修3回と出前研修8回と多様なレベル、ニーズに合わせた研修が行われていることが見て取れる。この研修の成果として、児童の学習の質がどのように変化したのかを検証するとともに今後も研修等の開催を積極的に進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																												
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																												
1 目的																																
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業			目標指標																													
7「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」			中学2年生の英語検定（I B A）の英検級レベル（割合）																													
事業概要及び目標			現状値（平成29年度） 目標値（平成30年度）																													
<p>小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、A L Tを活用して、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。</p> <p>J E Tプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。併せて、学校のクラブ設置を積極的に働きかける。</p>			<table border="1"> <tr> <td>3級L v</td> <td>8.7%</td> <td>3級L v</td> <td>10.0%</td> </tr> <tr> <td>4級L v</td> <td>25.4%</td> <td>4級L v</td> <td>25.0%</td> </tr> <tr> <td>5級L v</td> <td>65.9%</td> <td>5級L v</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">実績値（平成30年度）</td> <td colspan="2">達成率</td> </tr> <tr> <td>3級L v</td> <td>12.0%</td> <td>3級L v</td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>4級L v</td> <td>25.4%</td> <td>4級L v</td> <td>101%</td> </tr> <tr> <td>5級L v</td> <td>61.5%</td> <td>5級L v</td> <td>94.6%</td> </tr> </table>		3級L v	8.7%	3級L v	10.0%	4級L v	25.4%	4級L v	25.0%	5級L v	65.9%	5級L v	65.0%	実績値（平成30年度）		達成率		3級L v	12.0%	3級L v	120%	4級L v	25.4%	4級L v	101%	5級L v	61.5%	5級L v	94.6%
3級L v	8.7%	3級L v	10.0%																													
4級L v	25.4%	4級L v	25.0%																													
5級L v	65.9%	5級L v	65.0%																													
実績値（平成30年度）		達成率																														
3級L v	12.0%	3級L v	120%																													
4級L v	25.4%	4級L v	101%																													
5級L v	61.5%	5級L v	94.6%																													
3 平成30年度の取組と自己評価																																
取組と成果																																
<p>小学校外国語活動については、ノンJ E T（民間への業務委託）のA L T 4人、J E T（国の外国青年誘致事業）のA L T 8人、計12人を配置し、3・4年生が15時間、5・6年生が35時間の外国語活動を実施している。また、各幼稚園に英語のC Dを配布し、英語に慣れ親しむ機会を設定した。</p> <p>また、夏季休業中に市内小学生3・4年生と5・6年生を対象に「英語でチャレンジ」を実施。37名の児童が参加し、英語でゲームをしたり、人文字を作ったりと体験活動を通して、英語に親しむ機会とした。</p>																																
小学校英語活動																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>対象・学年</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">英語でチャレンジ1・2</td> <td>7月27日（金）</td> <td rowspan="2">栗原市教育研究センター</td> <td>3・4年</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>7月31日（火）</td> <td>5・6年</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>外国語活動・英語研修会</td> <td>7月13日（金）</td> <td></td> <td>教員</td> <td>小1名、中1名 悉皆研修</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数	英語でチャレンジ1・2	7月27日（金）	栗原市教育研究センター	3・4年	18人	7月31日（火）	5・6年	19人	外国語活動・英語研修会	7月13日（金）		教員	小1名、中1名 悉皆研修										
事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数																												
英語でチャレンジ1・2	7月27日（金）	栗原市教育研究センター	3・4年	18人																												
	7月31日（火）		5・6年	19人																												
外国語活動・英語研修会	7月13日（金）		教員	小1名、中1名 悉皆研修																												
A L T配置状況																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> </tr> <tr> <th>校数</th> <th>学校名</th> <th>校数</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J E T</td> <td>3校</td> <td>高清水、瀬峰、志波姫</td> <td>8校</td> <td>築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫</td> </tr> <tr> <td>ノンJ E T</td> <td>9校</td> <td>鶯沢、金成、若柳、一迫、宮野、築館、栗駒南、栗駒、花山</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>						小学校		中学校		校数	学校名	校数	学校名	J E T	3校	高清水、瀬峰、志波姫	8校	築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫	ノンJ E T	9校	鶯沢、金成、若柳、一迫、宮野、築館、栗駒南、栗駒、花山	—	—									
	小学校		中学校																													
	校数	学校名	校数	学校名																												
J E T	3校	高清水、瀬峰、志波姫	8校	築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫																												
ノンJ E T	9校	鶯沢、金成、若柳、一迫、宮野、築館、栗駒南、栗駒、花山	—	—																												
評 価																																
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																															
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針																																
<p>小学校3・4年生での外国語活動、5・6年生での外国語科の実施に伴い授業時数が増加することから、小・中の連携を意識した授業づくりを行い、指導力の向上を図っていく。</p>			➡	<p>学習指導要領改訂の趣旨により、小・中の連携、A L Tとの連携を図る。また、書く・読む等の授業づくり及び校内掲示物の工夫により外国語に慣れ親しむ場の設定について周知する。</p>																												
5 学識経験者の意見																																
<p>今年度は「英語でチャレンジ」の実施が2回と昨年度より1回増えたが、参加人数は昨年度とほぼ同数であった。参加人数が増加しない要因を明確にして次年度につなげたい。</p>																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課 学校教育課
1 目的				
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
8「防災教育副読本の活用」「ジオパーク教育の推進」			栗駒山麓ジオパーク（商工観光部ジオパーク推進室）を活用した小・中学校数	
事業概要及び目標			現状値（平成29年度）	
貴重な地域資源である栗駒山麓ジオパークを活用した防災教育について取り組む。			小学校 9校/12校	
			中学校 2校/ 8校	
			目標値（平成30年度）	
			小学校 12校/12校	
			中学校 5校/ 8校	
			実績値（平成30年度）	
			小学校 11校/12校	
			中学校 3校/ 8校	
			達成率 82.4%	
3 平成30年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>学校におけるジオパーク活用を推進し、その結果、平成25年度には1回（30人）のジオパーク活用数であったが、年々回数、人数ともに増加し、平成30年度には栗原市内の小・中学校だけで30回、延べ1,304人の活用があった。特に小学校においては、1校を除きすべての学校が活用し、ジオパーク学習を行っている。学習は、商工観光部ジオパーク推進室や栗駒山麓ジオパーク推進協議会の協力を得た「フィールド学習」を中心に行った。</p> <p>12月には若柳総合文化センターにおいて「学習交流会」を開催し、5つの学習発表があった。</p> <p><発表内容></p> <p>① 鶯沢小学校5年 「文字甚句ダンス」</p> <p>② 鶯沢小学校6年 「ジオガイドになろう～未来の栗原を考える～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイドと一緒に、2日間にわたって栗原の魅力さがしをし、それを基にして作成したリーフレットを使い、修学旅行先でジオガイド活動を行ったこと <p>③ 金成小学校6年 「わたしたちが見たジオパーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒砥沢地すべりの現場見学と、地すべりシミュレーション装置を使った実験、岩石の観察をとおして考えたこと <p>④ 築館小学校6年 「栗駒山麓に学ぶ～ジオパーク学習を通して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ山はくずれたのか、なぜ電柱が倒れたのかななどの疑問から、大地の成り立ちの理解をとおして、栗原の災害の特徴も学んだこと <p>⑤ 瀬峰中学校2年 「ふるさと栗原を学ぼう～地元栗原PR大作戦!!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗駒山や伊豆沼・内沼での様々な体験から地域の現状を知り、よりよい栗原の未来へ提案 				
評 価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針				
<p>小学校1校、中学校4校（学校再編により全7校）でジオパーク学習が行われていない。栗原の貴重な自然の教材を全ての小・中学校が活用し、防災教育にも有効に活用していく必要がある。</p>			<p>各小・中学校が平成31年4月にオープンした「ビジターセンター」を有効に活用した学習が展開できるよう、ジオパーク推進室との連携を強化していく。</p>	
5 学識経験者の意見				
<p>栗駒山麓を活用したジオパーク学習が今年度においては小中学校で30回延べ1304人の活用があったことは大きな成果であると考えます。また、ジオパーク学習を防災教育に結びつけている取組も非常に良い。今後は「ジオパーク推進室」と新設の「ビジターセンター」の連携を強化し、学校再編でまだ行われていない学校にも普及していただきたい。</p>				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成								
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課								
1 目的												
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。												
2 具体的事業												
施策を構成する事業			目標指標									
9「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」												
事業概要及び目標												
いじめの防止、いじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、栗原市いじめ防止基本方針に基づき、学校の内外を問わず、関係者が一体となりいじめ問題を克服する。												
3 平成30年度の取組と自己評価												
取組と成果												
<p>各学校では、児童生徒の「学校生活アンケート」の記載内容や教師による日常観察、児童生徒からの訴えから「いじめ」を把握し、適切に対応してきた。また、月1回の定期報告を受け、各校と連絡を取り合いながら、いじめの未然防止に努めるなど、日常の連絡体制を整えるように努めた。</p> <p>教育委員会においても、「栗原市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関と連携を取りながらいじめ防止に関する情報を共有することができた。また、各小・中学校に発達段階や児童の生徒の実態に応じた「命を大切にす教育年間指導計画」の作成を依頼し、全小・中学校で計画の作成を終えることができた。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>内容</th> <th>定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td> <td>平成30年11月30日（金）</td> <td>栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	内容	定数	栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成30年11月30日（金）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について	12人
事業名	開催日	内容	定数									
栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成30年11月30日（金）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について	12人									
<p>なお、各小・中学校の学校評価にいじめを生まない体制づくり推進のため評価項目を位置付けた。また、日頃から、各小・中学校との積極的な連携により、いじめや不登校についての情報交換を行い、支援するよう努めている。</p>												
評 価												
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>											
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針												
<p>「重大事案発生時における緊急対応の手引き」の定期的な確認・見直しを推進する。また、「命を大切にす教育」の年間指導計画の進捗状況の管理を推進する。</p>			➡	<p>各校の学期末に実施する学校評価項目に「命を大切にす教育」を付け加え、各小・中学校における指導の実践化を図る。</p>								
5 学識経験者の意見												
<p>いじめ防止については教師による日常観察、児童生徒からの訴え等が「いじめ」をいち早く把握できることであるように日々の行動が非常に重要である。また、各学校、機関との連携による情報共有も大切である。今後も日々の行動や機関との連携の充実を図り「いじめ」の防止にご尽力いただきたい。</p>												

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進		担当課 学校教育課

1 目的

一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。
また、豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指し、基礎学力を身に付けるための支援を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

10「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」

事業概要及び目標

学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができる体制を整備する。
また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、さらに、県よりみやぎ心のケア支援員1人（週1回）の派遣を受け、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに登校に向けての支援を行う。

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

教育相談員や在学青少年指導員等との連携し、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握するとともに、スクールソーシャルワーカー等を活用するなど適切な支援体制が整った。
本事業のねらいは、一人でも多くの児童生徒が学校復帰を果たすことである。学校復帰に係る過程は様々であり、「けやき教室」へ入所することもその一過程である。入所にあたっては、児童生徒一人一人の状況について、関係機関等との連絡・連携を密にしながらか適切に把握した上で、入所することが当該児童生徒にとって学校復帰につながる効果的な一助となり得るかを十分に吟味・検討しながら進める必要がある。単なる入所者の多寡が重要なのではなく、適切に入所の働きかけがなされているかが重要であるとの考えのもとに利用の働きかけを進めた。
けやき教室に通所している児童生徒に対しては、在学青少年指導員と補助員が一人一人の状況に応じて個別の指導を行った。なお、所属校と連絡を密にして指導を継続した結果、通所した中学3年生全員が希望する高校への進学を果たした。

事業名	対応日時及び時間	対応状況						
		来庁相談：2件、電話相談：11件、学校訪問相談：29件、その他：31件						
けやき教室	毎週月～金、 8：30～15：30	開所日数 85日						
		通所人数	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	
			正式通所	0	1	3	4	8
			体験通所	0	2	2	1	5
合計	0	3	5	5	13			

※ その他については、ケース会議、けやき教室に係る打合せ

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

在籍校と本人のつながりが途切れないようにけやき教室での様子を学校へ伝えることを継続して取り組む必要がある。また、心のケアハウスとの体制づくりを整備する。



けやき教室での学習や生活の様子をこまめに在籍校へ伝え、登校に向け、本人の負担感の軽減を学校に働きかける。また、校長会等でケアハウス事業を周知し、事業展開を図る。

5 学識経験者の意見

今年度通所した3年生全員が希望する高校へ進学できたことは大きな成果であると考えられる。これには関わっていただいた方々の支援体制が整っていたこと、そして一人一人の状況を関係機関との連絡・連携を密にして指導を継続できたことが大きな要因と考えられる。今後もより一層の学校復帰支援を継続していただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの心身の健康と体力の向上
	具体的施策	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
11「全国体力・運動能力調査の結果分析」	全国体力・運動能力調査の総合評価値比較 全国の総合評価値（平成29年度） 小学生 男54.16 女55.72 中学生 男42.11 女49.97 現状値（平成29年度） 小学生 男53.75 女55.81 中学生 男40.08 女49.61 目標値（平成30年度） 小学生 男55.00 女57.00 中学生 男43.00 女50.00 実績値（平成30年度） 小学生 男52.69 女56.85 中学生 男41.40 女50.25 達成率 小学生 男95.8% 女99.7% 中学生 男96.2% 女100.5%
事業概要及び目標	
毎年、全ての小中学校で実施している「全国体力・運動能力調査」の結果を累積・継続し、その変容を見ながら分析する。その成果と課題を明確にした上で、対策を講じることにより、児童生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、正しい食習慣や生活習慣を身に付け、生涯にわたって自らの健康を増進しようとする態度を養う。	

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

昨年度の課題を踏まえ、小・中学校とも体育の授業づくりにおいて、振り返り活動や児童・生徒同士で話し合う活動を取り入れるなどの工夫が見られるようになった。また、小・中学校とも運動・スポーツが苦手な児童・生徒への工夫により、運動・スポーツへの環境整備等の支援が見られるようになった。

平成30年度「体力・運動能力調査」は、平成29年度より小学5年女子、中学2年女子で県平均を上回り、特に小学5年女子は全国平均もやや上回った。小学男女では、「持久力」及び「走力」、中学男女では、「持久力」に課題が見られた。

「全国体力・運動能力調査」の結果（全国との比較）

1 小学校5年生の結果より

種目等	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(回)	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)	総合評価
	(筋力)	(筋持久力)	(柔軟性)	(敏捷性)	(全身持久力)	(全身持久力)	(走力)	(跳躍力)	(投力)	
30年度男子	17.53	18.66	32.60	42.27	40.86	47.85	9.67	149.91	22.23	52.69
30年度女子	17.20	18.67	37.30	41.93		40.86	9.76	148.34	14.72	56.85
男子全国平均	16.54	19.95	33.31	42.1		52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
女子全国平均	16.15	18.96	37.62	40.32		41.88	9.6	145.94	13.77	55.9

2 中学校2年生の結果より

種目等	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(回)	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)	総合評価
	(筋力)	(筋持久力)	(柔軟性)	(敏捷性)	(全身持久力)	(全身持久力)	(走力)	(跳躍力)	(投力)	
30年度男子	29.90	27.00	43.72	51.63	405.80	80.01	8.20	194.79	19.35	41.40
30年度女子	24.53	24.36	47.14	47.88	283.77	59.05	8.83	164.34	12.31	50.25
男子全国平均	28.84	27.36	43.44	52.24	392.65	86.06	7.99	195.62	20.55	42.32
女子全国平均	23.87	23.87	46.22	47.32	286.85	59.87	8.78	170.26	12.98	50.61

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

小・中とも「持久力」に課題が見られるという結果だった。本市の課題を各小中学校で共有し、日々の授業づくりの工夫が必要である。



学習カードの工夫・累積等により、体を動かす楽しさを味わうことができる授業づくりを行い、自ら運動に親しむ児童生徒を育成する。

5 学識経験者の意見

「持久力」及び「走力」に関する課題は、授業だけではなく外遊びの時間の確保も大切なこととなる。そのためには学習カードの活用で自ら意欲的に取り組むことは非常に重要なことである。今後も体を動かす楽しさを味わう体育の授業づくり、そして自ら運動に親しむ児童生徒の育成にご尽力いただきたい。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供	担当課	社会教育課

1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、子育てについての学習や親同士、保護者同士の情報交換、親子の交流やふれあいを通じて子どものしつけや子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

12「家庭教育学級」

事業概要及び目標

幼児、児童及び生徒の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級へ講師派遣の支援を行う。
これまで、未開催の学校等での実施に向け、継続的に周知する。

目標指標

参加人数

現状値（平成29年度）	3,912人
目標値（平成30年度）	4,000人
実績値（平成30年度）	1,498人
達成率	37.4%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

年度当初に、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校（以下「学校等」という）に事業の周知を行い、学校等が保護者を対象に家庭教育学級を実施した際の講師謝礼の助成を継続して行った。

事業活用の申し込みはあったが、申請に至らなかった学校等もあった。学校予算等の他の予算で講師謝礼を支出した学校もあるようである。未開催の学校等については、個別に電話で事業の周知を行った結果、1幼稚園で実施に至った。

家庭教育学級実績

平成28年度			平成29年度			平成30年度		
保育所	2回	18回	保育所	4回	26回	保育所	3回	13回
幼稚園	6回		幼稚園	7回		幼稚園	4回	
小学校	9回		小学校	14回		小学校	5回	
中学校	1回		中学校	1回		中学校	1回	
保育所	124人	2,285人	保育所	223人	3,912人	保育所	227人	1,498人
幼稚園	638人		幼稚園	1,057人		幼稚園	600人	
小学校	1,332人		小学校	2,445人		小学校	518人	
中学校	191人		中学校	187人		中学校	153人	
199,000 円			265,000 円			151,000 円		

D

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

多くの学校では家庭教育学級を実施しているが、「家庭教育学級講師謝礼助成事業」を活用しないで、他制度を利用している場合もあり、この事業の利用実績数が大きく変動することがある。



学校等で家庭教育学級を実施しやすくするための仕組みとして、新たに「講師派遣型事業」を実施するとともに、これまでと同様に「講師謝礼助成事業」も継続する。また、他制度を活用した学校での家庭教育学級実施とこの事業の定着度を確認することにより、学習機会の提供に対する本事業の評価を行う。

5 学識経験者の意見

保育所、幼稚園、小学校、中学校が連携して、保護者が子育て・教育について学習し情報交流する機会として重要だと考えられる。家庭教育学級を実施していない学校は何がネックでそのような状況になっているのか、また、講師の人選や提供される話題が参加者のニーズとマッチしているかなどを検討・改善していく必要もあるかもしれない。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

13「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

ジュニア・リーダー登録人数

事業概要及び目標

地域少年集団の育成と活動の支援体制を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を行う。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動、社会教育事業等への参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。

現状値（平成29年度）	48人
目標値（平成30年度）	48人
実績値（平成30年度）	31人
達成率	64.5%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

各種研修会や子ども会等への派遣を行うため、ジュニア・リーダーの育成を継続して実施することとし、開催の準備等も行ったが、人数が集まらず開催に至らなかった事業や縮小した事業もあった。ジュニア・リーダーの人数は減少の傾向であるが、ジュニア・リーダーを活用できる事業は、参加者が増加している状況である。

ジュニアリーダー地区別人数

(単位：人)

	築館	志波姫	若柳	金成	栗駒	鶯沢	瀬峰	高清水	一迫	花山	計
上級	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
中級	3	0	0	1	4	1	0	0	0	0	9
初級	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	10
有級者計	5	0	0	1	12	2	0	0	0	0	20
未取得者	7	0	0	1	3	0	0	0	0	0	11
計	12	0	0	2	15	2	0	0	0	0	31

前年度のジュニア・リーダー
の人数：48人

ジュニア・リーダー関連事業

事業名	期 日	参加者数	担当部署
ジュニア・リーダー連絡協議会	7月8日（日）	JL延べ2人	社会教育課
せみね合宿通学	9月25日（火）～28日（金）	13人（JL4人）	瀬峰・高清水教育センター
ジュニア・リーダー初級研修会	12月16日（日）、23日（日）	JL12人	社会教育課
ジュニア・リーダーフェスティバル	未実施	—	社会教育課
くりこまハロウィンパーティー	11月17日（日）	50人（JL3人）	栗駒・鶯沢教育センター
かなりクリスマス子ども祭り	12月2日（日）	231人（JL1人）	若柳・金成教育センター
せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー	12月9日	100人（JL3人）	瀬峰・高清水教育センター
築館ジュニアリーダー人形劇まつり	12月23日（日）	63人（JL11人）	築館・志波姫教育センター
合 計		471人	

評 価

C

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダーの登録人数が減少しており、特にジュニア・リーダーが不在の地区ではその存在について認知度が低くなってきている。教育委員会・市子ども会育成会・ジュニア・リーダーが連携しての募集活動が必要となっている。



他の自治体の育成のための体制づくり等について情報収集を行うとともに、ジュニア・リーダーの活動の機会の確保に努めるとともに併せて周知活動を行う。6年生を対象とした「インリーダー研修」の開催を検討する。

5 学識経験者の意見

ジュニア・リーダーの育成は青少年の発達にとっても、家庭や地域の教育力向上にとっても大切だと思われるが、登録人数が減少していることは気にかかる。児童・生徒は学校で過密な時間割の中で学び、学校行事や部活動との兼ね合いも考慮したうえで、本事業への参加を促進する手立てを講じる必要もありそうである。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

14「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」

参加人数

事業概要及び目標

現状値（平成29年度）	1,356人
目標値（平成30年度）	1,400人
実績値（平成30年度）	1,631人
達成率	116.5%

青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体と共催による事業を実施する。

また、各種事業に、ジュニアリーダー、シニアリーダーの活用を進め、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者育成の一翼を担う。

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、成長過程での情操教育の一環として、教育センター等で関係団体と連携し青少年を対象とした事業を開催した。また、ジュニア・リーダーを活用できる事業については、事業運営にジュニア・リーダーを活用した。

事業名	期日・期間	対象	参加人数(人)	連携団体
少年体験教室事業（まなびっこ）※	7月～1月（4回）	築館・志波姫地区小学生	84	築館・志波姫教育センター、若柳・金成教育センター、瀬峰・高清水教育センターの連携事業
少年体験教室事業（わんぱく塾）	7月～3月（6回）	若柳・金成地区小学生	191	
第39回少年の主張栗原大会	7月11日（水）	中学生	各校代表（聴衆：210人） ⁸	青少年のための栗原市民会議
あきる野市・栗原市友好親善交流事業	7月31日（火）～8月2日（木）	生徒会交流：市内中学生 部活交流：若柳中（野球部員）	栗原市 45 あきる野市 37	市内中学校
かなりクリスマス子ども祭り	12月2日（日）	児童、保護者、一般市民	231	金成地区子ども会育成会
風あげ大会	2月9日（土）	高清水、瀬峰地区市民（親子）	31	青少年のための栗原市民会議高清水地区会
図書館でのおはなし会	4月～3月（土）	幼児、小学生	658	読み聞かせボランティア「ひなたぼっこ」、 「おはなし やまぼうし」
こども陶芸教室	5月～9月	小学生以上	50	栗駒・鶯沢教育センター
作って飛ばそう！ ペットボトルロケット	8月19日（日）	一迫地区小学生	14	青少年のための栗原市民会議一迫地区会
カブトムシ相撲大会	8月11日（土）	小学生	9	青少年のための栗原市民会議高清水地区会
せみね合宿通学（※）	9月25日（火）～28日（金）	瀬峰地区小学4年～6年生	13	せみね合宿通学実行委員会
2018栗駒こどもまつり	12月9日（日）	市内小学生等	220	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会
2018いちほさまこどもまつり（※）	12月9日（日）	一迫地区小学生	40	一迫地区子ども会育成親の会連合会
計			1,631	

※はジュニア・リーダーが運営に関わった事業

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

青少年の健全な成長を促すため、多様な体験の場を継続して提供するとともに、将来の青少年教育を担う指導者を育成していく。



各種団体と連携し、多様な体験や遊びの場を提供できるよう努める。ジュニア・リーダーの活用場として、放課後子ども教室でのボランティアとしての活用を検討する。

5 学識経験者の意見

青少年期における成長に必要な体験活動の機会を提供するとともに、ジュニア・リーダーとして異年齢集団をリードする機会にもつながるなど、高い効果を上げていると評価できる事業である。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

15「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」

参加人数

事業概要及び目標

地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。

現状値（平成29年度）	1,475人
目標値（平成30年度）	1,500人
実績値（平成30年度）	1,693人
達成率	112.8%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センターごとに実施した。年齢や地域、抱える問題や価値観などに関する事業を実施したことにより、市民が生涯にわたり学習を続けていく機会となった。

事業の種類	事業名	期日・期間	対象	延べ参加人数(人)	担当している教育センター
シニアセミナー (60歳以上)	アクティブカレッジ	6月～12月(4回)	築館・志波姫地区	183	築館・志波姫
	リフレッシュカレッジ(※)	6月、9月、10月(3回)	瀬峰・高清水地区	36	瀬峰・高清水
	花山寿康大学	6月～11月(金4回)	花山地区	51	一迫・花山
	松葉大学	6月～3月(6回)	志波姫地区	92	築館・志波姫
レディースカレッジ	女性教室	年4回	若柳・金成地区	111	若柳・金成
市民セミナー	いちごもぎ取りノルディックウォーキング	6月16日(土)	栗駒・鶯沢地区の親子・成人	15	栗駒・鶯沢
	消しゴムはんこ	11月25日・12月2日	栗駒・鶯沢地区の小学生	21	栗駒・鶯沢
	神楽教室(※)	7月～3月	栗駒・鶯沢地区の一般・子供	480	栗駒・鶯沢
	園芸講座	6月～12月(5回)	一迫・花山地区	64	一迫・花山
	手芸講座	7月～9月(5回)	一迫・花山地区	66	一迫・花山
	陶芸教室	4月～10月	栗駒・鶯沢地区	120	栗駒・鶯沢
	こども陶芸教室(※)	5月～9月	栗駒・鶯沢地区の小学生	50	栗駒・鶯沢
	心の安らぎ写経講座(※)	4月～3月(12回)	瀬峰・高清水地区の市民	105	瀬峰・高清水
	楽しい英会話教室	4月～3月(24回)	瀬峰・高清水地区	137	瀬峰・高清水
	時事川柳・江戸風俗教室(※)	10月～3月(6回)	栗原市内の一般市民	162	築館・志波姫
合計				1,693	

※は、講師が65歳以上であった事業

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

事業は各教育センターとも、継続して実施しているため参加者が固定化している傾向がみられる事業もある。



関係機関からの要望により、実施に至った事業もあり、ニーズにあった事業実施に努める。参加者が固定化している事業については、サークル等の活動として自立できるよう支援を行う。

5 学識経験者の意見

多様化する市民の生涯学習内容に応じた学習機会の提供と充実を図るうえで重要な事業である。参加者が固定化している事業については、市民が学習機会を享受するだけでなく、学びの要求・内容を自ら組織化し、学習におけるリーダーシップを発揮していくことを促すことも今後の課題であろう。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

自分たちが暮らす栗原市について学習ができ、日常生活を快適なものにすることができるよう、暮らしに関わる情報や健康等について学べる市民大学を開設する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

16「くりはら市民大学」

修了証書授与者数

事業概要及び目標

市内在住の18歳以上の人（学生は除く）を対象に、今年度から、「くらし」や「健康」などの各テーマを設定し、外部講師による講座等を開設する。定員は100名程度とし、継続した学びを推進するため、一定基準以上の講座を受講した方に修了証書を交付する。市民の方々を構成員とする実行委員会による開催を検討する。

現状値（平成29年度）	- 人
目標値（平成30年度）	80人
実績値（平成30年度）	94人
達成率	117.5%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

平成30年度から新規事業として、各テーマにあった講師による講座等を実施した。募集から1週間で定員に達した。全7回中、5回出席した方に修了証を交付したが、受講者の85%が修了した。市民を構成員とする実行委員会方式の導入について検討したが、次年度の受講者に修了者は含まないこととしたため、導入を見送ることとした。

平成30年度「くりはら市民大学」開催状況

区分	開催日	講師	内容	出席状況（人）			
				出席	欠席	取消	合計
第1回	6月23日（土）	シドニー五輪 女子10000m代表 管理栄養士 高橋 千恵美 氏	演題「食事で出来る健康管理」	94	16	0	110
第2回	7月14日（土）	栗駒山麓ジオガイド	移動研修「栗駒山麓ジオパーク」 ・移動研修は3コースに分かれて開催し、ジオパークの魅力や地域の成り立ち、歴史・文化を伝えていただいた。	89	20	1	110
第3回	9月8日（土）	全日本時事川柳協会 理事長 千葉 朱浪 氏	演題「川柳と世相」	86	21	3	110
第4回	10月7日（日）	浮世絵研究家・作家 高橋 克彦 氏	演題「蝦夷の魂」	89	17	4	110
第5回	11月17日（土）	気象予報士・天気キャスター 齋藤 やすのり 氏	演題「天気予報の楽しみ方・活かし方 ～教えて！齋藤さん～」	91	15	4	110
第6回	12月1日（土）	株式会社やまや 代表取締役社長 山内 英靖 氏 大和蔵酒造株式会社 営業課 課長 本郷 憲吉 氏	演題「お酒の楽しみ方」	78	28	4	110
第7回	2月2日（土）	アナウンサー・朗読家 渡辺 祥子 氏	演題「言葉の力、生きる力」	98	8	4	110

◆延べ出席者数 625名
◆平均出席者数 89名
◆修了者数 94名
(男37名、女57名)

※「特別聴講制度」とは、会場内の空席を活用して、くりはら市民大学受講生以外の方が受講できる制度。（聴講料：1講座あたり1人500円）

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
 B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
 C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
 D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

新規事業であったため、実施にあたってその都度、協議を行った。特別聴講制度も設けたが、受講できる範囲等について周知が行き届かなかった部分もあった。



特別聴講制度について、市民へ周知する。

5 学識経験者の意見

栗原市民に生涯学習の機会を提供し、生涯にわたって学び続ける意識と意欲を喚起するうえで意義の大きな事業である。次年度は特別聴講制度についても市民に周知されるということで、より広い市民に学習の機会が開かれることも期待される。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的
 家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。

2 具体的事業	
施策を構成する事業	目標指標
17「協働教育推進事業」	協働教育各種推進事業への参加人数
事業概要及び目標	現状値（平成29年度） 2,472人 目標値（平成30年度） 2,500人 実績値（平成30年度） 2,599人 達成率 104.0%
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習および体験活動等を支援する学校支援ボランティア推進事業や地域活動支援事業などを実施し、家庭・地域・学校が連携・協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。 また、「放課後子ども教室」により、安心安全な活動拠点による子どもたちの学習活動や体験活動への取組を推進する。	

3 平成30年度を取組と自己評価

取組と成果
 地域住民の協働教育の意義と重要性への理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施した。
 今年度、小学校では昨年度同様指定校を含む全12校が、中学校では継続した啓発により指定校制度を導入するとともに、全8校中6校で実施した。（中学校は昨年度より2校の増となった。）放課後子ども教室は、事業従事者の都合により中止となり、新たな従事者の確保に努めた。

事業名	期日	対象	参加人数(人)
第1回協働教育推進委員会	3/11	協働教育推進委員 ほか	20
北部管内協働教育研修会	11/28	幼稚園、小中学校教職員及びPTA役員 ほか	45
地域活動支援事業	12/23	築館・志波姫地区	80
	12/2、12/25	若柳・金成地区	266
	11/17	栗駒・鶯沢地区	36
	12/9	瀬峰・高清水地区	100
	1/5、1/19～2/8	一迫・花山地区	222
小計			769

事業名	期日	対象	参加人数合計(人)
学校支援活動(推進指定校)	通年	高清水小(26)、花山小(177)、栗駒中(74)	277
学校支援活動(推進指定校以外)	通年	築館小(150)、宮野小(56)、若柳小(41)、栗駒小(163)、栗駒南小(393)、一迫小(27)、瀬峰小(147)、鶯沢小(14)、金成小(53)、志波姫小(68)、築館中(337)、栗原西中(39)、瀬峰中(19)、金成中(31)、志波姫中(12)	1,553
小計			1,830
合計			2,599

(参考)

事業名	対象	事業内容
学校支援活動(推進指定校)	高清水小学校	サツマイモ植え、スマホケータイ安全教室、命を守る着衣泳、理科特別授業 ほか
	花山小学校	こんにやく芋の栽培、花壇整備、婦人会との交流、沢登り・動植物の観察 ほか
	栗駒中学校	一迫商業高校出前授業、ふるさと学習指導、秋の市出店準備・販売実習補助 ほか

評価

A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

地域のボランティアと学校をつなぐ地域コーディネーターが配置されている学校と配置されていない学校がある。コーディネーターがいなくても活動している学校もあり、事業実施の体制は地域の実情にあわせる必要性も感じられる。

➡

地域と学校の連携を強くするため、地域、学校及び教育委員会を繋ぐ組織として地域学校協働本部の設置について、引き続き検討していく。

5 学識経験者の意見

地域住民がボランティアとして子どもたちの学習や体験活動を支援することで、「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを促進する貴重な事業である。地域の人々がボランティアとして担える領域や仕事（シーズ）と、子どもたち、学校のニーズのマッチングをさらに図っていけるとより大きな成果をあげることができると考える。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸し出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

18「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」

市民一人あたりの図書貸出数

事業概要及び目標

栗原市立図書館と9箇所の図書室を結ぶネットワークシステムの有効活用、「図書館まつり」・「ブックスタート・セカンドブック」などの各種事業や「レファレンスサービス」など各種サービスの実施、移動図書館車の運行などとおして、図書館および図書室の利用を促し、市民の読書活動を推進する。

現状値（平成29年度）	3.0冊
目標値（平成30年度）	3.1冊
実績値（平成30年度）	3.1冊
達成率	100%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

平成29年度から開始した図書館ネットワークシステムを円滑に運用できるよう、市立図書館職員が各公民館図書室（9ヶ所）を2つのルートに分けて巡回し、貸し出し予約のある図書の配達や返却のあった図書の回収を行った。その結果、総貸出冊数のうち公民館図書室の貸出冊数は62,789冊となり、昨年度より2,469冊増加した。そのほか、これまでと同様に移動図書館車の運行や図書館まつり等を実施することにより読書活動を推進した。

年度	総貸出冊数	(総貸出冊数のうち公民館図書室貸出冊数)	総人口(年度末)	市民一人あたりの図書貸出数
平成25年度	201,822冊	61,593冊	73,096人	2.8冊
平成26年度	223,493冊	61,901冊	71,924人	3.1冊
平成27年度	217,994冊	61,474冊	70,895人	3.1冊
平成28年度	212,922冊	58,154冊	69,717人	3.0冊
平成29年度	206,405冊	60,320冊	68,946人	3.0冊
平成30年度	211,644冊	62,789冊	67,829人	3.1冊

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

近年、図書のネットワークシステム導入により市民に身近な公民館図書室の利便性が高くなったことを、十分に周知できていない。併せて利便性の向上による貸出条件の見直しを行う必要がある。



ネットワーク化について継続した広報により広く周知に努めるとともに、読書環境を更に充実させるため、貸出冊数や貸出期間の変更について検討する。

5 学識経験者の意見

栗原市内の図書館をネットワーク化することで、各図書館が点ではなく線で結ばれ、様々な書誌情報が効率的に収集・共有できるようになる。また、図書貸出数も伸びるなどの成果も出ている。

施策体系	基本方針	共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進		担当課 社会教育課

1 目的

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

19「青空大使派遣事業」

事業概要及び目標

市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフや熱帯雨林などの大自然に触れ、ファームステイや現地での学校訪問をとおして、海外の生活・文化、風土等の直接体験や現地の中学生や家庭との交流を行うことにより、異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成することを目標とする。

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

面接やグループワーク等により選抜された市内在住の中学2年生20人を6泊7日でオーストラリアに派遣し、ファームステイ（2泊）や現地校での授業体験や生徒（パディ）との交流を通して英会話能力の向上や異文化に触れる機会とした。

また、グリーン島やキュランダの研修では、世界遺産のグレートバリアリーフや熱帯雨林等を眼前にし、自然保護の重要性や多民族国家における共存について学習する機会となった。

海外研修の前に、5回の国内研修を開催し、英会話のレッスンやホームステイ体験についての講話を行い、現地学校交流時に行う栗原市を紹介するプレゼンテーションやアトラクションのダンスを通して、各団員の能力や団員相互の団結力など海外研修を実施するにあたっての意識を向上させ、事後研修において成果をまとめ、記録誌を作成することにより総括とした。

記録誌や事後のアンケート調査では、「ホストファミリーが『不安な私』を理解し、工夫しながら積極的に話しかけてくれて、私も何かを伝えたいと思った」「英語の授業と実際の英会話の違いにびっくりした」等の団員の感想が寄せられ、保護者からも「この数ヶ月で大きく成長し驚いた」「家族では経験させられないことがたくさんあった」との声が聞かれた。

	期 日	研 修 内 容
結団式		
第1回	5/11（金） ※保護者参加	市長あいさつ、団員紹介、激励・決意のことば 事業概要説明、旅行説明
第2回	5/20（日）	アイスブレイキング、健康管理について、班別研修、英会話レッスン
第3回	6/24（日）	ダンス練習、班別活動（学校交流プレゼン練習、英会話レッスン）
第4回	7/8（日）	英会話レッスン、ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン・ダンス練習
第5回	7/18（金） ※保護者参加	事前連絡、旅行説明、プレゼンリハーサル
海外研修	7/29（日）～8/4（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策（世界遺産）等自然体験 他
第6回	8/18（土）	研修報告準備、壁新聞作成
第7回	9/1（土） ※保護者参加	研修報告準備
解団式		市長・団長あいさつ、ねぎらいのことば、研修報告、団員代表のことば

評 価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

英会話をもっと勉強していけば良かったとの感想が聞かれた。事前研修時に、英会話の能力を高められるよう意識づけが必要である。



海外研修がより効果的に充実したものになるよう、研修内容を見直すとともに、事前研修において団員に意識づけしていく。

5 学識経験者の意見

中学生に国際的視野を通じた異文化理解の機会を提供し、世界に開かれた意識をもつ栗原市民の育成にも資する事業である。海外研修に際して、英会話の勉強を通じた語学力の向上も大切である。さらに、中学生として、どんな目的、目標をもって海外研修に行くのかを吟味させる機会もあるとよい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		担当課 社会教育課

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

20「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」

目標指標

参加人数
(参考値)
現状値(平成29年度)19,300人(27事業)
目標値(平成30年度)15,000人(21事業)
実績値(平成30年度)15,278人(22事業)
達成率 101.9%

事業概要及び目標

優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。

また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

優れた文化芸術に触れる機会の充実を図り、地域文化の創造に努めるため、各種文化事業を開催した。今年度は、栗原文化会館において、新たな視点で施設内にあるグランドピアノとステージを活用した一般開放事業を実施したところ、大変好評を得ることができた。

社会教育課実施事業(8事業)				栗原文化会館実施事業(9事業)				若柳総合文化センター実施事業(5事業)			
事業名	開催日	人数	前年度人数	事業名	開催日	人数	前年度人数	事業名	開催日	人数	前年度人数
1 第81回河北美術展栗原展	5/15~5/20	1,252	1,190	1 第17回 栗原みてけらいん美術展	6/15~6/24	616	568	1 ダンスフェスティバル2018	8/26	256	359
2 小学校芸術鑑賞会	7/4、5	1,866	2,548	2 第54回 宮城水彩展「栗原展」	7/6~7/15	444	445	2 劇団四季ファミリーミュージカル	9/15	432	390
3 仙台フィルマイトウンコンサートin栗原	8/26	291	319	3 自主公演	7/15	967	1,903	3 わかやなぎ音楽祭	11/4	223	107
4 心にきざむ文化講演会	10/7	471	508	4 第22回 栗原市工芸展	8/7~8/12	497	297	4 春の祭典~舞踊と民謡 流派の集い~	3/3	422	-
5 青少年劇場小公演	9/10、11	607	977	5 グランドピアノ一般開放事業	9/1~9/30	42	-	5 チャーリー西村のおもしろサイエンスショー	3/21	325	-
6 宮城県巡回小劇場	9/13	489	202	6 第31回 栗原書道展	10/13~10/21	348	210	計		1,658	
7 第12回栗原市写真展	2/23~3/3	654	380	7 第31回 栗原市美術展	11/13~11/18	711	335	社会教育課実施事業 計	8事業	5,864	
8 けやきステージ2018	11/25	234	295	8 菊地義彦寄贈作品展	11/25~12/2	966	-	栗原文化会館実施事業 計	9事業	7,756	
計		5,864		9 寄贈作品の常設展示	4月~3月	3,165	3,518	若柳総合文化センター実施事業 計	5事業	1,658	
				計		7,756		合計	22事業	15,278	

※平成30年度の自主公演は「松竹大歌舞伎」

(継続している事業について、前年度人数を記載)

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

同一事業でも内容によって参加者数に変動があるため、ある程度の集客数を確保できるように事業を企画する必要がある。



事業参加者にアンケート調査等を継続して実施し、市民のニーズにあった事業実施に努める。

5 学識経験者の意見

市民が優れた文化芸術に接する機会を提供し、市民の文化的資質の向上と地域文化の創造につながる事業として高く評価できる。提供できる内容・場と、参加者の関心とのマッチングをさらに図っていくことで、一層の効果が期待できる。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課
1 目的				
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
21「史跡伊治城跡・史跡入の沢遺跡整備事業」				
事業概要及び目標				
<p>史跡伊治城跡については、貴重な文化遺産であり後世に残すとともに、広く市民に親しまれるような整備を進め、平成29年10月13日に国の史跡に指定された入の沢遺跡については、史跡範囲の追加指定を目指し、調査を進める。</p> <p>また、現地説明会を開催する。</p>				
3 平成30年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>『史跡伊治城跡』 伊治城の政庁跡内の発掘調査を実施し、政庁区画施設の構築方法や東脇殿の一部と考えられる柱穴跡が検出され、整備のための成果をあげることが出来た。ただし、小規模な発掘調査だったため、現地説明会を開催することは出来なかった。「史跡伊治城跡調査整備指導委員会」において、調査方法や調査成果について報告を行った。</p> <p>『史跡入の沢遺跡』 平成30年度から入の沢遺跡の追加指定に伴う発掘調査に関して、宮城県教育庁文化財課の協力を得て栗原市が主体となって実施した。文化庁調査官に来跡して頂き、現地での指導を受け、追加指定に関して意見を頂いた。また、追加指定に伴う測量業務に関して、国土調査の不備があったことから、年度内で完了することは出来なかった。</p> <p>○史跡入の沢遺跡発掘調査現地説明会 ・日時 平成30年6月9日（土）10：30～12：00 ・見学者数 113人</p>				
評 価				
B	A	良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）		
	B	概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）		
	C	やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）		
	D	課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）		
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針				
<p>伊治城跡の条件整備として、不用物除去等を行なうとともに、指定地内の空家に関して、所有者の意向を確認する必要がある。</p> <p>入の沢遺跡の追加指定に関して、関係機関と協議を進める必要がある。</p>			➡	<p>伊治城跡に関して、地域住民への説明会の開催及び意向調査の実施。</p> <p>入の沢遺跡に関して、追加指定の意見具申の提出。</p>
5 学識経験者の意見				
<p>史跡伊治城跡については、栗原市が誇る貴重な文化遺産であり、市民がその価値を正しく理解し、保存・保護に努める意識を涵養するために必須の事業である。入の沢遺跡に関しても、国の史跡として追加指定がされ、市民のアクセスが可能になることを望む。</p>				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進		
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課		
1 目的						
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業			目標指標			
22「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」						
事業概要及び目標						
指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動を行う個人・団体及び伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体に対する活動支援策として、補助金を交付する。						
3 平成30年度の取組と自己評価						
取組と成果						
指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、保護活動を支援することができた。						
また、伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担を軽減し、伝承活動を支援することができた。						
申請の段階で、補助金交付に対する説明を行ったが、各団体活動状況や実情が異なることから、細やかな聞き取り調査が必要である。						
○補助金の交付状況						
・指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動に対する補助金 2個人・3団体 925,000円						
・無形文化財保存伝承に対する補助金 1個人 95,000円						
・無形民俗文化財保存団体に対する補助金 8団体 322,100円						
○無形文化財・民俗文化財の指定件数 平成31年4月1日現在						
大分類	中分類	小分類	国指定	県指定	市指定	計
無形文化財	芸能					0
	工芸技術			1	1	2
	小計			1	1	2
民俗文化財	有形民俗文化財				4	4
	無形民俗文化財	風俗慣習		1	3	4
		民俗芸能	1	1	32	34
		民俗技術				0
小計		1	2	39	42	
評 価						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)					
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)					
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)					
4 令和元年度に向けた課題・今後の方針						
各団体が求める支援策について、活動状況や実情などの聞き取り調査を実施することが重要となっている。			➡	各団体が求める支援策について、聞き取り、話し合い、課題解決を図る。		
5 学識経験者の意見						
栗原市に継承されている伝統技術や民俗芸能の価値を市民が理解し、保存・保護する意識を高めるために重要な事業である。伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体がどのような支援策を求めているのか。聞き取り調査には労力も要するであろうが、細やかな把握を行うとともに、伝統技術や民俗芸能の保存・保護に対する市民の意識の向上を望みたい。						

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上を目指し、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

23「栗原ハーフマラソン大会」

事業概要及び目標

子どもから高齢者まで、多くの市民が参加しやすいよう種目を設定し、日本陸上競技連盟の公認を取得した、栗原市ハーフマラソンコースを会場に開催する。参加ランナーには「する」楽しさ、応援・協力をいただく方々には「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを体感しながら健康増進・体力向上を図れるような大会運営とする。

目標指標

大会参加人数

現状値（平成29年度）	1,526人
目標値（平成30年度）	1,700人
実績値（平成30年度）	1,457人
達成率	85.7%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

出走者数1,457人（親子ペア246人）であり、その内市民は394人（親子ペア150人）の出走があった。当日は、絶好のマラソン日和に恵まれ、就学前の子どもから高齢者まで多くの参加者が景色を楽しみながら健脚を競い、爽やかな汗を流し健康増進及び体力の向上が図られた。
また、多くの市民ボランティアの参加により、運営もスムーズであった。さらに、沿道からも大きな声援があり、参加者との交流も図られた大会となったが、申込者数と出走者は、前大会から減となり、目標値には達しなかった。

第4回栗原ハーフマラソン大会

11月11日（日）開催

部門名	申込人数	うち市民	出走人数	うち市民
1 ハーフ	753人	55人	665人	53人
2 10km	258人	35人	222人	31人
3 5km	150人	46人	131人	42人
4 3km	104人	57人	90人	50人
5 2km	109人	70人	103人	68人
6 2km（親子ペア）	260人 130組	158人 79組	246人 123組	150人 75組
合計人数	1,634人	421人	1,457人	394人

※ゲストランナー高橋千恵美さんは5km出走

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

大会運営の細部で検討が必要である。また、市ホームページ等で、大会開催日を早めに周知するなど、ソフト面の充実を図る必要がある。



大会も5回目となることから、大会運営を検証し、大会を充実させ参加者の増加に努める。

5 学識経験者の意見

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民が参加し、走る側と応援する側が一体となり、マラソン競技を通じた健康増進と地域活性化の両面につながる事業である。5回目を迎える次年度、どのようなかたちで大会の充実と参加者の増加を図るのか、さらなる取組に期待したい。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上を目指し、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力し、スポーツ活動の推進を図る。
(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

24「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」(高校陸上大会、東北中学校卓球大会、体力・運動能力調査)

事業概要及び目標

市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。
また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。

目標指標

各種大会参加人数

現状値 (平成29年度)	2,434人
目標値 (平成30年度)	2,500人
実績値 (平成30年度)	2,630人
達成率	105.2%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

○スポーツ大会等の実施状況

- ・参加者の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種大会を開催した。
- ・小学校陸上競技大会は、各校の協力もあり多くの児童が参加できた。

【小学校大会新記録種目】

男子5年生100m、男女とも5・6年生共通ジャベリックボール投
女子5・6年生共通80mハードル、女子4年生80mの5種目

【高校陸上大会新記録】

男子：3,000SC

女子：400mH、4×100m、ハンマー投の4種目

事業名	期日	対象者	参加人数	
			H30	H29
東北中学校卓球大会	5月26日～27日	東北地方の中学生	670人	679人
小学校陸上競技大会	6月10日	市内小学校4年生以上	974人	977人
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7月21日～22日	県内・岩手県内高校生	977人	768人
体力・運動能力調査	9月6日	市内在住68歳～78歳	9人	10人
合計			2,630人	2,434人

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

大会的に定着してきているが、他地区での競技会や各事業の開催日が重なった場合、出場校が減少し大幅な参加者の減となる状況である。



日程等について、時期を固定化し、今後も関係機関との調整を行い参加者確保に努める。

5 学識経験者の意見

中学生、高校生、市民がともに参加し、地域のスポーツ振興とスポーツ文化の創造を図る事業として高く評価できる。日程を固定化することができれば、他の競技大会との共存も図れると考える。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上を目指し、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

25「宮城ヘルシー2018ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」

大会参加人数

事業概要及び目標

子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。

現状値（平成29年度）	5,468人
目標値（平成30年度）	4,200人
実績値（平成30年度）	4,029人
達成率	95.9%

3 平成30年度の取組と自己評価

取組と成果

開催当日は天候に恵まれ中止になる種目もなく、スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに生涯スポーツの振興を図ることができた。地区予選会への参加者が大幅に減となったことから、目標値に達することができなかった。

【開催日】8月19日（日）

【会場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒

【種目・参加人数】本大会・地区予選会の総参加者数 4,029人

大会参加人数

種目	チーム数	参加人数
ソフトボール	9	130人
家庭バレーボール	10	114人
家庭バレーボール（シニア）	4	48人
ベタンク（シニア）	10	39人
ベタンク（フリー）	9	37人
グラウンド・ゴルフ	10	67人
健康づくりコーナー		52人
ニュースポーツ体験		35人
ロープジャンプチャレンジ		40人
合計	52	562人

地区予選会参加人数

種目	参加人数
ソフトボール	1,327人
家庭バレーボール	951人
家庭バレーボール（シニア）	20人
ベタンク（シニア）	240人
ベタンク（フリー）	112人
グラウンド・ゴルフ	817人
合計	3,467人
大会参加人数	562人
地区予選会参加人数	3,467人
合計	4,029人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和元年度に向けた課題・今後の方針

子どもから高齢者まで多くの市民が参加できる大会として定着してきたが、高齢者の参加が減少傾向にある。



減少傾向にある子どもと高齢者が、楽しめる種目の検討を各競技団体と行い、参加人数の安定を図る。

5 学識経験者の意見

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民がスポーツ・レクリエーションの機会を享受し、スポーツ文化を育む貴重な事業である。子どもと高齢者の参加が減少傾向にあるようだが、児童生徒の部活動や地域スポーツクラブへの参加状況なども考慮して、参加人数の安定につながる今後の取組に期待したい。

3 学識経験者からの意見（総評）

宮城教育大学 教授 池田 晃一 氏
准教授 本田 伊克 氏

学力向上に関する施策には現状値、目標値、達成値のような具体的な数値からの達成度が示されている。具体的で分かりやすい反面、数値だけにとらわれてしまわないように、児童生徒の学習意欲や理解などの質の向上に目が向くよう他の事業との連携や統合をしていただきたい。

また、防災教育、いじめ、不登校に関する施策では、日々の観察と各機関との連携、そして、個別の対応が非常に重要であり、今年度に関しては、非常に良い成果を残していた。今後もより一層のご尽力を期待したい。

地域を通して子育て・教育に取り組み、子どもから高齢者の世代間交流、文化継承、地域の再生と創造についてさまざまな取組が行われ、多くの成果も上がっていることを評価したい。

今後の課題としては、一つ目には、栗原市民の学習・教育ニーズと、栗原市にあるシーズ（資源）とのマッチングの必要性を指摘したい。多様化する市民のニーズを市の方でも極力把握・調整する一方、市民自身が生涯学習の機会を自ら提案し、学習者としてリーダーシップを発揮していくことも願う。

もう一つは、子どもたちの学習・成長環境と、市の育成事業との兼ね合いに関する課題である。学校生活のほか、塾や習い事でだけで児童生徒も疲弊しがちではあるが、こうした状況の中でも、子どもたちが地域の中で学び、さまざまな世代と交流し、文化・芸術・スポーツ活動に主体的に参画することには、その人間的成長の上で大きな意義があると考えます。この点についても、市の学校教育、生涯学習セクションと、市民との連携をさらに強化し、必要であれば事業の精選も含めた実質的な内容の拡充を期待したい。

今後とも、栗原市の教育に関する事業がさらに豊かに取り組まれ、子どもたち、地域住民が豊かな人生を送り、地域文化を共同して創造していくことにつながっていくことを期待している。

最後に要望であるが、成果が現れたところ、成果が現れなかったところに対し、その原因と対策をもう少し明確に示して欲しい。つまり、①数値等から何が読み取れるのか（what）、②何故そうなったのか（why）、③どうすれば改善できるのか（plan）を具体的に分かりやすく示しながら、PDCAサイクルを活用した、より良い解決策を見いだして欲しい。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価を実施し、学識経験者として宮城教育大学のお二人の先生からいただいた御意見を踏まえ、次のとおり今後の取組をまとめました。

【学府くりはらの学校教育】（事業No.1～11）

学力向上に関する施策は、数値だけに捉われてしまうことなく、児童生徒の学習意欲や理解等の質の向上に目が向くよう他の事業との連携や統合の必要性について御意見をいただきました。

新学習指導要領の本格実施に伴い、特別の教科道徳や小学校外国語（5・6年）、プログラミング教育の必修化、主体的・対話的で深い学びの実施が求められています。

教職員の研修事業の充実と、教員が集中して教育に臨める環境づくりへの支援を引き続き行い、授業改善へとつなげられるよう取り組んでいきます。また、児童生徒の学力向上は喫緊の課題です。学力向上対策プロジェクト事業による秋田県大仙市への小・中学校教員の研修派遣や、市独自の学力向上研究指定校の実施とともに、研修派遣の教員が学んできた指導方法や授業改善の取組の共有を図り、教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を目指します。

また、各事業間の連携を図ることで、児童生徒の学習意欲や理解など質の向上につなげ、学府くりはらが目指す個性を生かす教育を推進し、数値だけに捉われずに達成度を評価していきます。

防災教育、いじめ、不登校に関する施策では、非常に良い成果を残していたと評価をいただきました。次年度、不登校の解消をねらいとして新たに子どもの心のケアハウス事業をスタートさせるとともに、いじめ防止基本方針への取組を学校評価項目へ位置付け、命を大切にす教育を各校の重点事項の柱に据え、いつでも相談できる体制の整備と、児童生徒の教育的ニーズに応じた支援に努めます。

【学府くりはらの社会教育】（事業No.12～25）

地域を通じた子育て・教育の取組について、多くの成果が上がっているとの評価をいただき、市民自身が生涯学習の機会を自ら提案することや、子どもたちが地域で学び、さまざまな世代と交流して行う活動において、市の学校教育や、生涯学習のセクションと、市民の連携を強化し、必要に応じて事業の精選と実質的拡充を期待するとの御意見をいただきました。

生涯学習の推進において、学校と地域が連携して行う協働教育の仕組みづくりは重要なことです。地域の人材育成と有効的に活用する体制づくりの確立に向けた事業と、活動を牽引するリーダーの育成について、喫緊の課題として取り組み、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進していきます。

社会教育事業への市民参加は、人口減少と多様化されたニーズによって減少していくことから、市民ニーズの把握と事業の見直しや改善に努めることで事業を活性化し、参加者にとって魅力的な事業となるよう努めます。また、市民が行う文化芸術活動や

スポーツ活動、文化財の保存・継承等の活動に対して引き続き支援と協力を行います。

なお、優れた文化芸術に触れる機会の提供による市民の文化的資質の向上や、異文化交流による将来を担う国際的視野を持った人材の育成、社会教育施設の整備による学習環境の改善や、図書環境の整備による読書活動についても推進します。

市では、目標指標の設定と数値化により事業の進捗管理と計画的な運営、分かりやすい評価に努めてきました。お二人の先生方からいただいた御意見を生かして、これまでの数値の推移から一定の成果を上げている事業、見直しを行う必要のある事業、工夫や改善が必要な事業を分析し、今後の事業計画に反映していきます。